

補 足 説 明 資 料

（ 但 馬 県 民 局 ） 令和7年2月10日

		ページ
1	（新規） 但馬フィールドパビリオンへの誘客強化と連携促進	1
2	但馬の多彩な観光資源の魅力発信	2
3	山陰海岸ジオパークエリア活性化の推進	4
4	（拡充） 「鉱石の道」を活用した地域活性化の推進	5
5	（拡充） つながるたからじま農のブランド化推進事業	6
6	スマート農業技術の確立・定着・拡大	9
7	（新規） 生産者・生産団体との交流を通じた但馬農林畜水産物の消費拡大 促進事業	10
8	（拡充） 但馬材素材生産強化・向上	11
9	（拡充） 但馬産業活性化の推進	12
10	（拡充） 「但馬で働こう大作戦」の推進	13
11	（拡充） 新規就農者の確保・定着事業	14
12	沖合漁業船員の育成および定着促進	15
13	基幹道路ネットワークの整備（土木部）	16
14	地域医療構想の実現と推進	17
15	社会的処方及び重層的支援体制の整備による地域共生社会の推進	18
16	（新規） 高齢者のニーズに応じた社会参加の場づくり事業	19
17	「たじま福祉交流・連携エリア」プロジェクトチーム事業	20
18	但馬地域鉄道利用の促進	21
19	（拡充） 地域防災力の充実・強化	22
20	但馬の住まいの耐震化促進	23
21	コウノトリも棲める郷づくりの推進	24
22	新潟県との連携（コウノトリとトキの野生復帰・環境創造型農業 の推進）による情報発信と交流促進	25
23	但馬の自然環境保全と復活・再生に向けた支援	26
24	ラムサール条約湿地を活用した環境学習事業	27
25	クリーン但馬10万人大作戦の推進	28
26	清流の郷づくり大作戦	29
27	野生鳥獣害被害対策の推進	31
28	但馬U・I ターン400人大作戦の展開	32
29	地域活動応援事業の推進	33
30	地域の見守り力アップ作戦	34
31	安心安全で住みよい但馬の農村（むら）づくり	35
32	但馬牛がいるむらづくり支援事業	36
33	県民局広報・広聴の強化事業	37
34	但馬地域ビジョン2050の推進事業	38
35	専門職大学等と連携した芸術文化振興の推進	39
36	豊岡復興建築群の魅力発信	40
37	（新規） 但馬の歴史と物語を活かした新しいまちづくり	41

記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	TEL	発表者名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	県民躍動室 地域振興課	ダイヤルイン 0796-34-6126	室長 植田 勝明 （多自然地域づくり専門官 衣川 勇）	

但馬フィールドパビリオンへの 誘客強化と連携促進

1 事業の趣旨、目的

大阪・関西万博の期間中及び開催後も但馬への誘客を促進するため、但馬のフィールドパビリオンへの誘客の取組を推進する。また、異業種が集うフィールドパビリオンによる「つながりの場」を設け、フィールドパビリオンが自立して持続的に発展していくことができるよう支援していく。

2 事業内容

(1) 誘客促進のための仕掛けづくり

ア ファムトリップの実施

芸術文化観光専門職大学生らが造成したフィールドパビリオンモデルコースをメディアに体験してもらうツアーを実施し、但馬地域への誘客を促進する。

イ デジタルスタンプラリーの実施

但馬のフィールドパビリオン等の周遊を促すデジタルスタンプラリーを実施し、各フィールドパビリオンの魅力を体感してもらう。

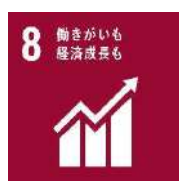
ウ フィールドパビリオン情報発信イベントの実施

但馬地域で行われる観光イベントに出展し、フィールドパビリオンによる体験提供・情報発信を行う。

(2) フィールドパビリオンつながりミーティングの開催

異業種のフィールドパビリオンが互いに連携し、高め合い、自立自走してけるようにするための場づくりを行い、持続的発展に向けた交流を促進する。

3 予算額 3, 5 1 4 千円



プレミアムプログラム「湯がき体験」

記者発表（ 発表 ・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	県民躍動室 地域振興課（産業観光担当）	ダイヤルイン 0796-26-3686	室長 植田 勝明 （森上 康徳）	

但馬の多彩な観光資源の魅力発信

1 事業の趣旨、目的

コロナ禍を経て変化する旅行スタイルに対応し、着地型観光を地域が自主的に創りあげる土壌を育むことで、観光コンテンツの魅力向上を図り、従前からの取組と併せて支援することで、観光消費額の増加や滞在時間の向上を目指す。

2 事業内容

(1) 多彩な観光資源の魅力発信

ア 観光消費額向上に向けた着地型観光の構築推進

但馬の潜在的な観光資源の掘り起こしを行い、地元体験プログラムなどの着地型体験コンテンツの充実やそれに関わる人材の育成などを中心に支援し、観光消費額の増加や観光客の滞在時間の向上を促進

○対象事業：観光資源、コンテンツの誘客促進事業及び広報PR事業

○補助対象：観光協会等各種団体 等

○補 助 率：1／2（上限500千円）

イ 大阪・関西万博等を見据えたインバウンド誘客

(ア) インバウンド向けコンテンツの造成・PR・誘客促進支援

インバウンド観光客を対象とした、コンテンツの造成やPR、誘客促進事業を支援

○対象事業：インバウンドに向けた観光コンテンツの開発、多言語パンフレットや映像等PRツールの作成、ファムトリップ誘致等

○補助対象：観光協会等各種団体 等

○補 助 率：1／2（上限300千円）

(イ) 「VISIT JAPAN トラベル&MICE マート2025」への出展

国内最大級のインバウンド向け商談会に管内市町と共同して出展し、海外バイヤーに向けて情報を発信

ウ 但馬ツーリズム情報の積極的発信

兵庫DCの効果をもとに万博に向けて継続させるため、但馬観光協議会等と連携し、但馬のツーリズム情報をSNS等を活用して積極的に発信



【VJTM2024 商談の様子】

(2) サイクルイベントへの支援

但馬地域の豊かで魅力的な自然を最大限に活かす
サイクルイベントへの支援を通じて、交流人口の
拡大と地域経済の活性化を推進



【南但馬グリーンライド 2024】

(3) 二次交通の発展・充実

- ア 1日乗車券500円観光バス「たじまわる」の運行
公共交通を利用した但馬の周遊観光の定着化を
図るため、J R各駅等と観光地を結ぶ1日乗車券
500円観光バス“たじまわる”を運行
○ルート数 プレミアムを含む6コース

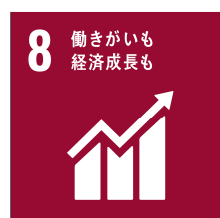


【観光バスたじまわる】

イ 大阪・関西万博を見据えた地域内周遊の促進

ひょうごF Pの展開等を契機に来但を見込む観光客の二次交通手段の確保や、
今後の運行に向けた検証・検討のため、交通事業者が実施する周遊観光に資する
事業に対し、事業費の一部を支援し観光地と公共交通機関を結ぶ二次交通の充実
を推進

3 予算額 23,293千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	県民躍動室 ジオパーク課	ダイヤルイン 0796-26-3782	ジオパーク参事 金岡美千代 （岡 秀樹）	

山 陰 海 岸 ジ オ パ ー ク エ リ ア 活 性 化 の 推 進

1 事業の趣旨、目的

但馬地域を含む3府県にまたがる山陰海岸国立公園を中心としたエリアを活性化させ、持続可能な地域を目指して、2010年に世界ジオパークネットワークへの加盟入りを果たした。

兵庫県、京都府、鳥取県、関係市町、関係団体で構成する山陰海岸ジオパーク推進協議会を中心に産業振興、保護保全、教育など各分野にわたるジオパーク活動を継続的に実施し、ジオパークエリアの活性化と持続可能な地域社会の形成を推進する。

2 事業内容

(1) 山陰海岸ジオパーク推進協議会への支援

世界レベルのジオパーク活動を継続的に実施するため、構成団体と連携し、積極的な取り組みを行う。

ア 産業振興・ツーリズム

- ・アート&ジオ共生事業 ・ジオパークトレイル活用事業 等

イ 保護保全活動の推進

- ・保護保全調査活動事業 ・保護保全活動支援事業 等

ウ 教育・調査研究

- ・学術研究支援事業 ・児童・生徒研究作品コンテスト 等

エ 情報収集・発信

- ・ホームページ情報発信強化 ・ジオパークパンフレット作成・増刷 等

(2) 山陰海岸ジオパークの受入環境充実の推進

大地の成り立ちなどを感じられるジオサイトを訪れる観光客等の受入環境を充実させるための看板等を設置し、山陰海岸ジオパークの魅力を国内外に発信する。

3 予算額 11,340千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	県民躍動室 地域振興課	ダイヤルイン 0796-34-6126	室長 植田 勝明 （多自然地域づくり専門官 衣川 勇）	

「鉱石の道」を活用した地域活性化の推進

1 事業の趣旨、目的

かつて全国有数の鉱山として栄えた中瀬、明延、神子畑、生野の4鉱山の近代化遺産を点から線へとつなぐ「鉱石の道」として活用し、各種団体・企業・行政等との連携により、但馬地域の活性化を図る。

2 事業内容

(1) ガイド人材の発掘

「鉱石の道」等への来訪者向けガイド人材を発掘するため、住民を対象とした講座等を開催する。

ア 講座、現地視察等の実施

イ 鉱石の道推進協議会のHP等におけるガイド紹介ページの作成

(2) 「鉱石の道」稼ぐ仕組みの創出

「鉱石の道」への来訪者の増加を図るため、地域団体等が行う食や宿泊に関連した環境整備のほか、新たな視点のイベントプロデュース等「稼ぐ仕組み」を創出する取組に対して支援する。

(3) 地域団体への活動支援

鉱石の道推進協議会等の関係団体と連携し、史跡生野銀山等の近代化遺産を活用した小・中学校等が実施する郷土学習や「鉱石の道」関連イベントへの支援等により、地域活性化を推進する。

3 予算額 4, 2 5 0 千円



【中瀬金山関所(養父市)】



【史跡生野銀山の観光坑道(朝来市)】



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発表者名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	豊岡農林水産振興事務所 農政振興課 朝来農林振興事務所 農政振興課	ダイヤルイン 0796-26-3694 ダイヤルイン 079-672-6879	所長 松岡 浩司 （小林 哲也） 所長 竹中 寛 （平岡 幹朗）	

つながるたからじま農のブランド化推進事業

1 事業の趣旨、目的

但馬地域では、平野から高原に至る農地、広大な森林、豊かな日本海において多様な農林水産業が営まれ、コウノトリ育むお米やたじまピーマン、岩津ねぎ、朝倉さんしょなどの特産物、最高品質の但馬ビーフ、松葉がになどが生産されており、農林水産業の持続的な発展をめざすとともに、さらなるブランド力の向上による儲かる農林水産業の実現を進める。

2 事業内容

【コウノトリ育む農法拡大総合対策の展開】

- (1) 育む農法推進に係る課題解決のための技術実証
品質向上や省力化、新品種（多収穫品種）の無農薬栽培及び施肥体系確立等に向けた技術実証ほを設置
- (2) 育む農法取組拡大に向けた生産条件整備（コウノトリ育む農法拡大条件整備事業）
取組を拡大する生産者・団体等への栽培経費支援
- (3) 育む農法の更なる認知度向上や販路拡大等によるブランド強化
ア J A たじまが実施する P R 活動への支援
イ 有機 J A S 等第三者認証の取得支援
- (4) コウノトリ育む田んぼ塾の開催
栽培技術レベルの高い農業者（育む農法アドバイザー）による栽培初心者等への指導により円滑な技術習得を推進
- (5) 育む農法拡大に向けた低コスト水利施設導入
冬期湛水の用水を確保するため、モデル区域で動力を利用しない自然の水位差を利用した低コスト水利施設の試験施工

【但馬牛の生産基盤強化対策の推進】

- (1) 農業遺産但馬牛システムの継承者の確保に向けた受入体制整備
新たな牛舎整備用地となる空き（予定）牛舎等の調査・検討後に、規模拡大志向の後継者や継承希望者とのマッチング

(2) 但馬牛耕畜連携流通システムの確立（堆肥の広域流通）

モデル地区における飼料作物と堆肥の流通体制の構築

ア 堆肥を活用した自給飼料（WCS、飼料用稲等）の実証ほを設置

イ 稲わらを畜産農家に供給するシステムの構築

(3) 美方郡産但馬牛の世界農業遺産認定活用

ア 農業遺産推進協議会（香美町、新温泉町、J Aたじま、県 等）によるプロモーション活動

①農業遺産シンポジウムの開催

②世界農業遺産認定証授与式典でのP R

イ 観光分野と連携して地域内外に情報発信

①情報発信の強化（但馬牛イベントへの支援、但馬牛アンバサダーの育成）

②但馬牛の小規模畜舎及び放牧風景の提供

【但馬産農水産物のブランド力向上】

(1) 他産地との差別化に向けたP R

商標、地域団体商標等を活用し、他産地との差別化、知名度向上に向けたP R活動を実施するとともに、生産者団体等が行うP R活動を支援する。

ア 販売店でのP R、地元での特設販売等（なしおとめ）

イ 展示会等への出展、販促活動への補助（美方大納言小豆、朝倉さんしょ）

(2) 生産安定・多収化・コスト低減に向けた技術開発と普及

品目ごとの課題に対応した調査研究や実証試験による栽培技術確立と普及を進める。

（たじまピーマン、なしおとめ、朝倉さんしょ、岩津ねぎ、有機野菜）

(3) 作付拡大への支援

ア 新規栽培等への経費補助（たじまピーマン、なしおとめ）

イ 技術習得への支援（なしおとめ「香住なしの学校」運営支援、朝倉さんしょ「さんしょスクール」開催）

ウ 優良種子確保対策への経費補助（美方大納言小豆）

エ 苗木確保対策（朝倉さんしょ）

(4) 有機農業等の推進

野菜や果樹など多様な品目への堆肥利用の拡大に向けた実演会の実施。

(5) 但馬産水産物の振興

ア 水産・加工・観光業者が連携して行う但馬産松葉がにのP Rなど、但馬産水産物や水産加工品の認知度向上と販路拡大に向けた活動を支援

イ いか釣り漁業の経営安定に向けた操業試験の実施

ウ 藻場保全に向けた重点的なムラサキウニの採取・駆除の実施

【農福連携を通じた特産物の生産拡大】

管内の特別支援学校や障害者就労施設等と連携し、障害者の農業分野での就労促進と地域特産物生産の拡大を図る。

ア 農家向け研修会と障害者就労施設等向け研修会の開催

イ 先進事例調査や関係機関の協議の場の設置、農業インターンシップの受入支援など、農業と福祉のマッチング体制の整備

【夜久野高原のブランド確立促進】

火山灰土の黒ボク土という特徴のある夜久野高原では、畑地の大区画化事業が進んでおり、恵まれた土壌や昼夜の寒暖差が大きいなどの条件から、高品質な白ネギ、ばれいしょ、黒大豆、そば等の生産拡大をめざしている。

農道の整備を契機に、朝来市の市政20周年関連イベントの1つとして、地域の美しい景観を巡るハイキングイベントが計画されており、「夜久野高原」という産地とその農業生産を支える土地改良施設の役割や歴史、地域の史跡・景観などを紹介するパンフレットを作成し、ブランド農産物とともに地域の魅力を多く方に発信する。

3 予算額 26,670千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	豊岡農林水産振興事務所 農政振興課 朝来農林振興事務所 農政振興課	ダイヤルイン 0796-26-3694 ダイヤルイン 079-672-6879	所長 松岡 浩司 （小林 哲也） 所長 竹中 寛 （平岡 幹朗）	

ス マ ー ト 農 業 技 術 の 確 立 ・ 定 着 ・ 拡 大

1 事業の趣旨、目的

但馬地域では、新規就農者の確保、集落営農組織の法人化等が進みつつある一方、農業従事者の高齢化が進み、担い手の確保が困難となっている集落も存在し、地域農地の維持保全が課題である。

このような状況下で、限られた労働力での生産性向上や効率化、作業の平準化等を図るため、先端技術を積極的に活用したスマート農業技術の確立・定着・拡大を図る。

2 事業内容

(1) ほ場条件や作物に対応したスマート農業技術確立・定着・拡大

但馬地域の自然環境、ほ場条件や経営規模、作物別にマッチするスマート技術を実証する。

内容 技術確立実証ほの設置
経営実験大規模実証ほ設置
先進地視察研修

3 予算額 1, 1 5 0 千円



ドローンによる水稻直播栽培の実証



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 (曜日)	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 (担当課長名)	その他の 配布先
2／10 (月)	豊岡農林水産振興事務所 農政振興課	ダイヤルイン 0796-26-3694	所長 松岡 浩司 (小林 哲也)	

生産者・生産団体等との交流を通じた 但馬農林畜水産物の消費拡大促進事業

1 事業の趣旨、目的

消費者が、生産者・生産団体等との交流を通して但馬農林畜水産物を「学び、体験して、知る」ことにより、但馬農林畜水産物の消費拡大を促進する。

2 事業内容

市町等主催イベントを活用して生産者・生産団体等が但馬ブランド農林畜水産物の調理品等の紹介や販売を行い、消費者に「学び、体験して、知る」機会を提供することで、日本農業遺産の認定を受けた「岩津ねぎ」をはじめとする但馬ブランド農林畜水産物の消費拡大を促進する。（R7～R9）

(1) 事業内容：市町等に、主催イベントと併せて但馬農林畜水産物調理品等を紹介・販売する事業の企画及び実施を委託

＜但馬農林畜水産物の紹介、提供＞

- ・コウノトリ育む農法・但馬牛生産システムの紹介
- ・但馬ブランド（コウノトリ育むお米、但馬ビーフ、たじまピーマン、なしおとめ、美方大納言小豆、朝倉さんしょ、岩津ねぎ、但馬産有機農産物・水産物・林産物）の調理品等の紹介、販売

(2) 対象市町等イベント：但馬全域から参加（出店）を募る交流人口促進事業

(3) 事業主体：市町等

(4) 実施箇所数：1 か所

3 予算額 2, 0 0 0 千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	TEL	発表者名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	豊岡農林水産振興事務所	ダイヤルイン	所長 松岡 浩司	
	森林課	0796-26-3698	（雑賀 謙彰）	
	朝来農林振興事務所	ダイヤルイン	所長 竹中 寛	
	森林第2課	079-672-6881	（福島 智則）	

但馬材素材生産強化・向上

1 事業の趣旨、目的

但馬地域では、利用可能な森林資源の増大に加え、素材生産力の強化に向け、主伐再造林による資源循環型林業を推進している。一方、森林資源の充実による木材生産の拡大が見込まれるなか、人材の確保や再造林の省力化が課題となっている。

このため、但馬地域の林業を担う人材の確保と育成や、現場作業の負担軽減に取り組むとともに、販路の確保による但馬産木材の利用拡大を促進する。

2 事業内容

(1) 資源循環型林業を担う人材の確保・育成

但馬地域の林業人材の確保・育成を図るため、林業の魅力を発信する出前講座や就労イベントを開催する。

ア 県立高等学校等での出前講座の実施や、但馬地域等で開催される移住・就労相談会への出席

イ 高性能林業機械等が活躍する林業の現場を見学できるバスツアーの実施

(2) 但馬型再造林モデルの実証

但馬地域の積雪量やシカの生息数に適応した再造林モデルを確立するための実証試験を実施する。

ア シカによる苗木の食害対策として、獣害忌避装置の現地実証を行い、再造林地への導入可能性を検討

イ 人力下刈りの代替として実施したドローンによる除草剤散布実証を行い、現場作業員の負担軽減や低コスト化を検討

ウ 奥地や急傾斜地での伐採箇所において、架線集材による作業システム検討会を開催し、木材搬出の低コスト化を検討

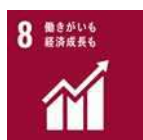


(3) 但馬産原木の海外輸出の促進

商社等流通関係者との情報交換会の開催

奥地での架線集材

3 予算額 1, 208千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発表者名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	県民躍動室 地域振興課（産業観光担当）	ダイヤルイン 0796-26-3686	室長 植田 勝明 （森上 康徳）	

但馬産業活性化の促進

1 事業の趣旨、目的

管内事業者の事業承継の円滑な推進や、商工会議所・商工会の連携による取組への支援、顕彰事業による企業のやる気向上に向けた取組等を通じて、但馬地域の産業の活性化を図る。

2 事業内容

(1) 事業承継の取組の推進

技術の承継や雇用の維持等による地域の活性化のため、経営者が後継者に引き継がないまま廃業されないよう、芸術文化観光専門職大学等と連携を図り、円滑な事業承継に向けた行政の支援のあり方を検討する。

(2) 支援団体等の人材交流・連携強化事業

地域が一体となって地元企業への支援を強化するため、商工会議所・商工会等支援団体が合同で行う販路拡大等のための勉強会や先進地視察などの取組を支援する。

○補助率：1／2（上限20千円）

(3) 関係団体と連携した但馬企業の応援事業

ア 但馬産業大賞による企業顕彰事業

但馬地域の様々な分野で地域産業の活性化に貢献した企業等を顕彰・発信し、受賞企業はもとより地域企業の更なる発展を促進

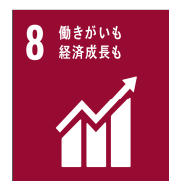
イ スタートアップ支援事業

芸術文化観光専門職大学と連携し、起業家や大学講師、学生、地域事業者等の交流促進と、但馬地域における起業機運の醸成を図るため、講演・交流会を開催



【スタートアップ支援事業の様子】

3 予算額 1, 4 5 8 千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	県民躍動室 地域振興課（産業観光担当）	ダイヤルイン 0796-26-3686	室長 植田 勝明 （森上 康徳）	

「但馬で働こう大作戦」の推進

1 事業の趣旨、目的

地元の高等学校や芸術文化観光専門職大学（以下「芸観大」という。）をはじめ、商工会議所や商工会、ハローワーク等関係機関と連携を図りながら、但馬で働くことの魅力に触れる機会を創出・提供し、多様な人材の雇用拡大を図る。

2 事業内容

(1) 高校生・大学生等に向けた情報発信事業

ア 但馬企業研究会の開催

但馬管内での就職促進のため、芸観大学生や但馬技術大学校生等を対象に、芸観大キャリアサポートセンターや管内市町等と共同で但馬企業研究会を開催

イ 高校生への情報発信

但馬管内企業の若手従業員を中心に、「但馬を選んだ」理由などを取材し、HP情報を掲載したチラシの配布等を通じて地元高校等へキャリア教育での活用を促進

ウ 大学生等に対する情報発信

各市町が作成している企業ガイドブックを各高校の協力を得て、進学した全卒業生（大学3年生等）に一括送付し、但馬の企業情報を発信

(2) 就職・雇用支援機関等との連携

人材確保と多様な働き方セミナーの開催

人材確保が困難ななか、関係機関と連携し、外国人等多様な人材活用・確保に資するセミナーを開催

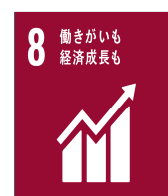
○対象：商工会議所・商工会会員等

○参加者数：50人程度



【企業研究会の様子】

3 予算額 2,308千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
	豊岡農林水産振興事務所 農政振興課 朝来農林振興事務所 農政振興課	ダイヤルイン 0796-26-3694 ダイヤルイン 079-672-6879	所長 松岡 浩司 （小林 哲也） 所長 竹中 寛 （平岡 幹朗）	

新規就農者の確保・定着事業

1 事業の趣旨、目的

高齢化・後継者不足により農業者の減少が深刻な中、担い手確保のためには、地元の農家子弟の就農だけでなく、但馬地域外から新規就農希望者を確保することが重要である。そのために、新規就農希望者が但馬地域を選択する機会として、要望に応じて随時、但馬で就農した新規就農者の体験を聞ける機会を創出する。

また、但馬地域の新規就農者定着を促進するためには資金支援以外にも地域で育てる環境づくりが必要であり、新規就農者への適切な指導・助言を行う30代を中心とする次世代の担い手を地域ごとに育成する。

2 事業内容

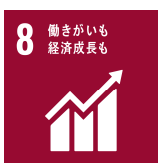
（1）農業体験

但馬地域外からの新規就農希望者に但馬の農業を知ってもらうため、たじま暮らしサポート BASE 等と協力し、市町の移住・定住・就農支援施策と連携しながら、耕種・畜産や品目を区分した少人数（2人程度）による農業体験（1～数回）を実施する。

（2）次世代の担い手育成

経営的にも安定してくる就農6～10年目の生産者を対象に地域の農業経営士等と連携を図りながら新規就農者を適切に指導・助言する次世代の担い手として育成するため、専門的な技術・知識を習得する「但馬次世代担い手講座」を開設し、1年ごとに修了者を輩出する。

3 予算額 624千円



記者発表（発表→資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発表者名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	但馬水産事務所 水産課	ダイヤルイン 0796-36-1153	水田 章 （小田垣 寧）	

沖合漁業船員の育成および定着促進

1 事業の趣旨、目的

沖合底びき網漁業とべにずわいがにかご漁業の沖合漁業は、但馬地域の年間漁業産出額約 100 億円のうち約 9 割を占めるだけでなく、但馬地域の水産加工業や観光業などと深く結びつく地域経済を支える基幹漁業である。しかし、沖合漁業は未経験者にとっては不安要素が多く、船員不足が常態化している。このため、船員不足を理由に事業継続が困難となる経営体が生じるおそれがある。

そこで、沖合漁業へ就労を希望する未経験者に実際の漁労作業等の現場研修を実施することにより、漁業経営者と新規就業者の雇用維持に関する不安の解消を図り、新規就業者の育成と定着を促進する。

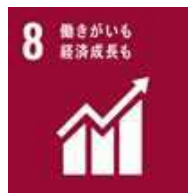
2 事業内容

沖合漁業に就労を希望する新規就業者を広く募集し、その育成と定着を促進するため、定着率をあげる活動を支援

- (1) 就業希望者に沖合漁業への理解を深めてもらうため、就職説明会への出展や漁船での作業内容などが分かる資料を作成
- (2) 沖合漁業への就労を希望する未経験者に実際の漁労作業等の現場研修を実施
- (3) 事業実施主体

兵庫県機船底曳網漁業協会、兵庫県ベニガニ協会、漁協、沖合漁業経営体

3 予算額 8, 8 3 5 千円



基幹道路ネットワークの整備

1 事業の趣旨、目的

「基幹道路八連携軸」を構成する北近畿豊岡自動車道(国直轄事業)と山陰近畿自動車道(県事業)の整備を推進する。

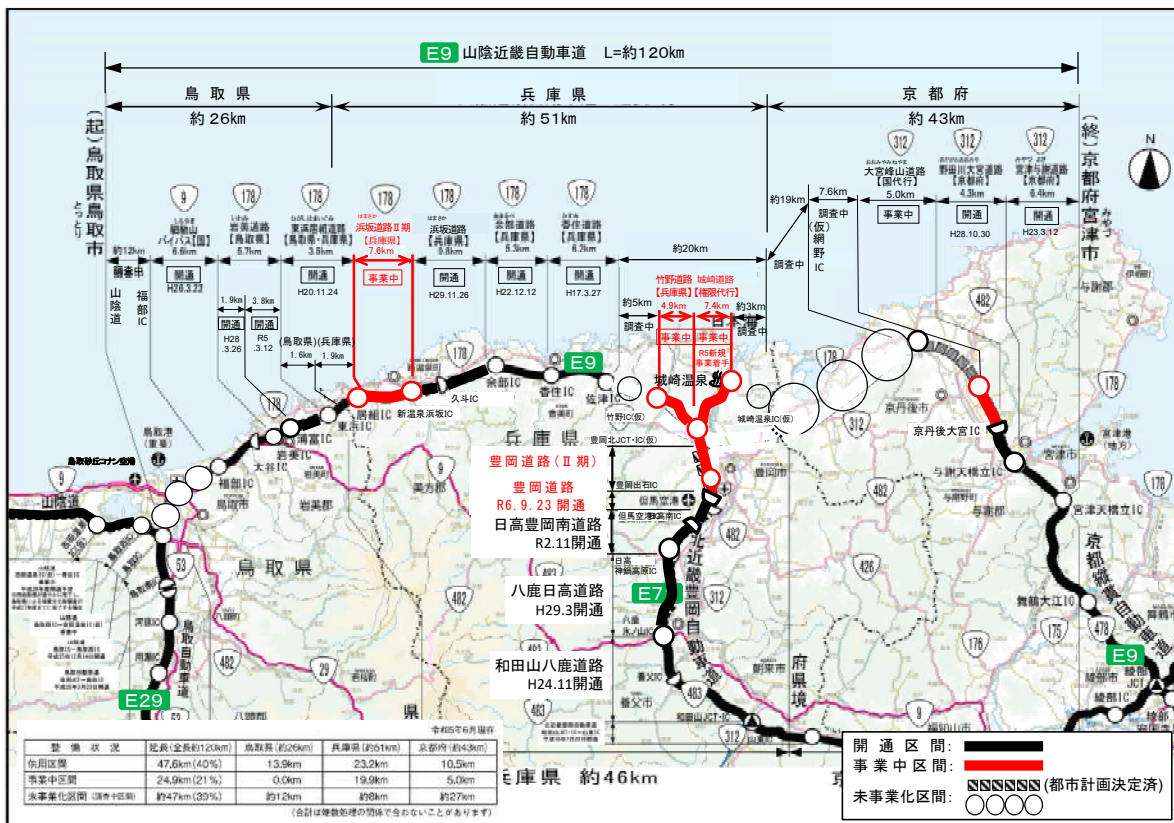
2 事業内容

(1)北近畿豊岡自動車道 ※進捗率 93% (全 73km のうち 67.9km 供用済)

箇所名等		事業概要	令和 6 年度の取組内容
①春日和田山道路	供用中	延 長：36.4km (遠坂トンネル 4.7km 含む)	平成 17 年 4 月：氷上 IC まで供用 [※] 平成 18 年 7 月：和田山 IC まで供用 [※]
②和田山八鹿道路	供用中	延 長：13.7km	平成 24 年 11 月：供用 [※]
③八鹿日高道路	供用中	延 長：9.7km	平成 29 年 3 月：供用 [※]
④日高豊岡南道路	供用中	延 長：6.1km	令和 2 年 11 月：供用 [※]
⑤豊岡道路	供用中	総事業費：190 億円(2 車線) 延 長：2.0km	令和 6 年 9 月 23 日：供用 [※]
⑥豊岡道路(Ⅱ期)	事業中	総事業費：270 億円(2 車線) 延 長：5.1km	令和 2 年度事業着手

(2) 山陰近畿自動車道 ※県内の進捗率 45% (全 51 km のうち 23.2km 供用済)

箇所名等		事業概要	令和 6 年度の取組内容
⑦香住道路	供用中	延長：6.2km	平成 17 年 3 月：供用 [㊤]
⑧東浜居組道路	供用中	延長：3.5km (うち兵庫県域 約 1.9km)	平成 20 年 11 月：供用 [㊤]
⑨余部道路	供用中	延長：5.3km	平成 22 年 12 月：供用 [㊤]
⑩浜坂道路	供用中	延長：9.8km	平成 29 年 11 月：供用 [㊤]
⑪浜坂道路Ⅱ期	事業中	総事業費：620 億円 延長：7.6km	内容：工事
⑫竹野道路	事業中	総事業費：645 億円 延長：4.9km	内容：調査設計、用地買収、 工事用道路設置工事
⑬城崎道路	事業中	総事業費：1,150 億円 延長：7.4 km	令和 5 年度事業着手
⑭佐津 IC～竹野 IC	調査中	延長：約 5.0 km	内容：早期事業化に向けた調査
⑮城崎温泉 IC～府県境	調査中	延長：約 3.0 km	内容：早期事業化に向けた調査



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発表者名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	豊岡健康福祉事務所 企画課	ダイヤルイン 0796-26-3655	所長 柳 尚夫 （副所長兼企画課長 前田 寛）	

地域医療構想の実現と推進

1 事業の趣旨、目的

「第8次兵庫県保健医療計画」が令和6年度に策定された。但馬圏域では、圏域単位では全国で初めての取組として、ロジックモデルを使用し、各項目の進捗状況を随時把握しつつ、目標に向けた取組を実施している。医療機関の機能分化・連携、在宅医療の充実を通じて、地域完結型医療への転換を図るため、効率的かつ質の高い医療提供体制を確保するとともに、医療従事者が定着するための環境づくり、公立病院間の連携強化を進めるための病床機能の再編、病院間の連携体制の構築を図るため、圏域が一体となった取組を進めている。

2 事業内容

但馬圏域の効率的かつ質の高い医療提供体制を確保するため、病院間連携のための協議、医療機関による自主的取組への支援を進めていく。

(1) 但馬圏域健康福祉推進協議会医療部会（地域医療構想調整会議）の開催

内 容：保健医療計画の推進、病床機能の再編、医療連携体制の構築等に関する
ことの協議

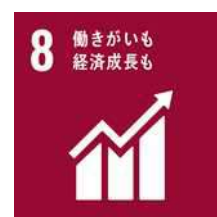
構成員：医師会、歯科医師会、看護協会、薬剤師会、公立病院代表、消防本部、
住民代表、医療保険者、行政 計21名

(2) 但馬圏域医療機関等連絡会議の開催

内 容：地域医療構想の実現に向けた医療体制、施策に関することの協議

構成員：医師会、公立病院組合管理者、病院長・事務長、有床診療所、行政
計28名

3 予算額 111千円



記者発表（ 発表 ・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	豊岡健康福祉事務所 企画課	ダイヤルイン 0796-26-3655	所長 柳 尚夫 （副所長兼企画課長 前田 寛）	

社会的処方及び重層的支援体制の整備による 地域共生社会の推進

1 事業の趣旨、目的

支え手受け手という立場を超えて誰もがつながりや生きがいを持てる地域共生社会の実現を目指す。そのために、行政等が制度の縦割りを越えた地域づくりや相談支援を実施する市町の任意事業である重層的支援体制整備事業について理解を深め、薬ではなくつながりを処方する社会的処方の考え方を医療福祉専門職や市民が学ぶ機会を作る。そして、行政、事業者、医療機関、市民等による地域づくりを加速化する。

2 事業内容

(1) 市町の重層的支援体制整備の実施の推進

研修会等の実施による重層的支援体制整備事業についての理解の促進と市町内の課題把握と取組の伴走支援の実施

(2) 医療機関等への働きかけ

社会的処方に関する理解を深める研修会の実施と孤立孤独の把握のためのツールの導入等を促す

(3) 地域資源開発をする社会福祉協議会、福祉事業者向けへのアプローチ

障害者が高齢者を支える仕組み等、先進事例の共有と伴走支援

(4) 社会的処方を実施するケースワーカーへのアプローチ

社会的処方により地域資源を処方先とした好事例を共有する事例検討会と社会資源マップ等の作成に向けた伴走支援

3 予算額 482千円



記者発表（ 発表 ・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	但馬県民局但馬長寿の郷 地域ケア課	079-662-8456	郷長 北田 輝彦 （小森 昌彦）	

高 齢 者 の ニーズ に 応 じ た 社 会 参 加 の 場 づ く り 事 業

1 事業の趣旨、目的

後期高齢期を迎えフレイル（虚弱）状態になると活動範囲が狭まり、今までの居場所や役割を失いやすく「自分らしい暮らし」の実現が難しい状況にある。

また、生産年齢人口の減少率が兵庫県内でも高い但馬圏域においては、高齢者にも働き手や地域の支え手として活躍できる環境の整備が喫緊の課題と言える。

そこで、地域住民、企業、行政と連携・協力し、高齢になっても活躍できる多様な活動の場づくりを支援することで、高齢者の健康づくり・介護予防、地域コミュニティの活性化、人材不足対策を一体的に行う。

2 事業内容

(1) 検討会議・ニーズ調査

検討会にて、フレイル高齢者に対する社会参加へのニーズ調査を実施して現状把握を行った上で市町の現状や課題を整理し、その中からモデル地区を選定する。

(2) モデル地区による多様な社会参加の場の創設

モデル地区の課題解決に向けて、ワーキンググループを立ち上げ、具体的に実施していく内容について検討する。元気高齢者を含めた地域住民や企業とも協働し、高齢者になっても活躍できる多様な活動の場を創設する。

(3) 市町への展開を支援

モデル実施で蓄積したノウハウを市町と共有し、実情に応じて専門的人材派遣により実装に向けた技術的支援を行う。

3 予算額 778千円



記者発表（ 発表 ・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	総務企画室 総務防災課	ダイヤルイン 0796-26-3618	室長 遠池 良逸 （班長（企画防災担当）原 悟）	

「たじま福祉交流・連携エリア」プロジェクトチーム事業

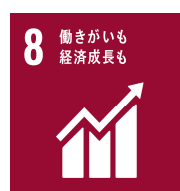
1 事業の趣旨、目的

発展的統合する特別支援学校と但馬 5 市町からの要望を受けて整備を計画している医療的ケア・重症心身障害児者に対応した福祉施設の周辺地域を「たじま福祉交流・連携エリア」とし、エリア内で多様な福祉連携の方策等について検討する。

2 事業内容

特別支援学校の開校に向け、プロジェクトチーム(PT)において、連携方策を検討し、実施に向けた関係者調整を行っていく。

3 予算額 4 0 2 千円



記者発表（ 発表 ・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	TEL	発表者名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	県民躍動室 地域振興課	ダイヤルイン 0796-26-3674	室長 植田 勝明 （和多田 佳史）	

但馬地域鉄道利用の促進

1 事業の趣旨、目的

地域住民の日常生活や観光・交流など、重要な社会インフラである鉄道を維持するため、JR山陰本線・播但線の利活用ワーキングチームの検討結果を踏まえ、沿線住民等の鉄道利用を促進し利用者増加をめざすとともに、地域資源の掘り起こし・活用により鉄道を利用した来訪者増を図り、地域活力の向上を目指す。

2 事業内容

県、但馬各市町、関係団体・地域組織で構成する「但馬地域鉄道利便性向上対策協議会」のもと、利用促進・利便性向上事業に取り組む。

(1) アクションプログラムの着実な推進

ア 交流人口の拡大による利用促進

駅前レンタサイクル補助

兵庫県但馬・鳥取県東部地域の交通・観光連携協議会と連携して、京阪神等からの鉄道利用者に対するレンタサイクル利用補助を実施し、2次アクセス充実を図る。

イ 利用意識の醸成

JRハイキング造成モデル事業

山陰本線（竹野～居組間に限る。）・播但線（竹田～生野間に限る。）の駅を起終点とし、沿線の地域資源を活かした新たなツーリズムを創出するガイド付きハイキングツアーを造成・実施する事業者、地域活動団体等を支援し、同線の魅力向上及び利用拡大を図る。

(2) 但馬地域における鉄道の魅力発信による利用促進 車両基地見学会の実施

地域住民（子ども）を対象に豊岡駅構内の車両基地見学会を実施し、鉄道に親しみを感じてもらい、鉄道利用につなげる。



車両基地見学会の様子

3 予算額 540千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	総務企画室 総務防災課	ダイヤルイン 0796-26-3618	室長 遠池 良逸 （班長（企画防災担当）原 悟）	

地域防災力の充実・強化

1 事業の趣旨、目的

台風やゲリラ豪雨などの風水害が頻発していることに加え、今後、巨大地震・津波災害などの発生が懸念されている。阪神淡路大震災30年、北但大震災100年を契機とし、災害に対する迅速・的確な避難行動等を促すため、住民の防災意識を高める。

また、次世代への震災記憶の伝承、過去の災害における経験・教訓の風化防止に繋げる。

2 事業内容

(1) 防災授業の共催

豊岡市が港中学校で開催する防災授業を共催し、防災教育の一環として生徒へ災害時非常食（アルファ化米）を試供。

〔実施時期〕令和7年5月23日（金）

(2) まちあるき事業及び防災パネル展示への誘客

豊岡市役所を中心に開催される復興建築群まちあるき事業及び市稽古堂で展示される災害写真展への誘客のための事業を実施。

〔実施時期〕令和7年5月24日（土）

(3) 関連広報の実施

新聞折り込み及び市内小学校へのチラシ配布による（2）についての広報を実施。

〔実施時期〕令和7年5月19日（月）～令和7年5月23日（金）

3 予算額 1,763千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 (曜日)	担当事務所名 担当課名	T E L	発表者名 (担当課長名)	その他の 配布先
2／10 (月)	豊岡土木事務所 まちづくり建築第1課	ダイヤルイン 0796-26-3755	まちづくり参事 山盛貴重 (まちづくり建築第1課長 瀬田一郎)	

但馬の住まいの耐震化促進

1 事業の趣旨、目的

令和6年1月に発生した能登半島地震では、多くの住宅が全半壊し、多くの死傷者が出ているが、県内でも耐震化率の低い地域とされる但馬地域でも、同様の地震が発生した場合、大きな被害が予想される。このため、管内5市町、地域の事業者と連携し、但馬地域の住まいの耐震化を促進する。

2 事業内容

(1) 但馬地域地震対策連絡会議の運営

但馬地域の住宅耐震化の促進に向け、県と管内5市町の担当部局が連携・協調し、各市町の補助制度の拡充や効果的な普及促進方策を検討する。

(2) 「耐震リフォーム達人塾in 但馬」の開催

多くの方が耐震改修工事を実施するには、耐震改修費用の低価格化が重要であることから、全国で普及が進んでいる安価な耐震改修工法の講習会「耐震リフォーム達人塾in 但馬」を但馬技術大学校で開催する。

(2) 中高生向け「耐震ワークショップ」の実施

管内の中高生向けに県民局が実施する「まちづくり出前講座」のメニューの一つとして、住宅耐震模型「ぶるる」を活用した耐震ワークショップを重点実施する。

3 予算額 0千円



耐震ワークショップ



耐震リフォーム達人塾
(R5 加古川での開催)



記者発表（ 発表 ・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	県民躍動室 地域振興課	ダイヤルイン 0796-26-3674	県民躍動室長 植田 勝明 （室長補佐兼地域振興課長 和多田 佳史）	

コウノトリも棲める郷づくりの推進

1 事業の趣旨、目的

コウノトリ野生復帰推進計画の基本方針に基づき、コウノトリ野生復帰の推進を図る。

2 事業内容

(1) コウノトリ野生復帰の環境整備

ア コウノトリ野生復帰推進連絡協議会の開催

コウノトリ野生復帰推進計画の推進体制として、関係者連携のもとコウノトリの野生復帰の実現に向け、取組の総合調整を行うとともに、事業の円滑な推進を図る。

・構成員 学識者（3名）

関係団体（区長会、農業協同組合、農業委員会、森林組合 等）

行政（国土交通省、県民局、但馬教育事務所、コウノトリの郷公園、市町）

イ コウノトリ営巣用人工巣塔設置への支援

但馬地域における更なるコウノトリの定着を図るため、地域団体が行う人工巣塔設置に係る経費を支援する。

(2) コウノトリ野生復帰PR事業の推進

地域団体が行う野生復帰事業のYouTube発信

コウノトリ野生復帰の先進地における成果を広く広報するとともに次世代へ繋いでいくため、YouTubeを通じて地域団体が行う取組みを発信する。

3 予算額 843千円



記者発表（ 発表 ・資料配布）				
月／日 (曜日)	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 (担当課長名)	その他の 配布先
2／10 (月)	豊岡農林水産振興事務所 農政振興課	ダイヤルイン 0796-26-3694	所長 松岡 浩司 (小林 哲也)	

新潟県との連携(コウノトリとトキの野生復帰・環境創造型農業の推進)による情報発信と交流促進

1 事業の趣旨、目的

コウノトリの野生復帰や環境創造型農業(コウノトリ育む農法)に取り組む豊岡市と、同様の取り組みを展開する佐渡市との連携・交流を促進し、成果を広く国内外に情報発信することで、但馬地域への来訪者の増加を図る。

2 事業内容

(1) 新潟県との連携による情報発信と交流促進 (R6～R7)

小学校どうしの交流(コウノトリ・トキの野生復帰や環境創造型農業に関するオンライン授業、生き物調査等の対面学習)や、農業者間の技術交流等に必要な経費を助成

ア 小学生対面学習等の支援

豊岡市内の田んぼやビオトープにおける生きもの調査に必要なバス借上料、通行料金、調査用機材(たも網、バケツ)、学習用パネル等資材購入費
イ 農業者間技術交流(新潟県からの農業視察受入れ)の促進

3 予算額 500千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発表者名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	県民躍動室 環境課	ダイヤルイン 0796-26-3650	県民協働参事 永井 秀明 （藤原 英隆）	

但馬の自然環境の保全と復活・再生に向けた支援

1 事業の趣旨、目的

豊かな自然に恵まれた但馬地域においても、とりまく環境の変化により、希少な動植物が危機的な状況に置かれるなど、元来の自然環境が失われつつある。

これら希少動植物の保護は、但馬で暮らす人々の安全安心な生活環境を守るため、重要な取組である。

本事業は、その活動に必要な費用を補助し、但馬の自然環境が次世代へと継承されるよう支援を行うとともに、令和5年度策定の「但馬・みらいと環境づくりの道しるべ」に則り、失われつつある自然環境の再生と啓発に係る事業を実施する。

2 事業内容

(1) 環境保全等の活動への支援

自然環境の保全と復活・再生に向けた活動（希少動植物保護、温暖化対策、漂着ごみ対策、環境学習事業等）を実施する環境保全団体等の取組に対して必要な経費の補助を行う。

(2) 自然環境再生・啓発事業

希少動植物の保護及び地球温暖化防止につながる事業を実施し、但馬地域における自然環境再生・啓発事業を実施する。

(3) 環境フェスティバルの開催

県民に環境への関心をもってもらい、環境保全意識の高揚及び普及啓発を図り、実践活動への参加の契機として、親子等で楽しめる「環境フェスティバル」を開催する。

(4) 実施主体

但馬・みらいと環境づくり協議会

3 予算額 1, 4 5 9 千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	県民躍動室 環境課	ダイヤルイン 0796-26-3650	県民協働参事 永井 秀明 （藤原 英隆）	

ラムサール条約湿地を活用した環境学習事業

1 事業の趣旨、目的

兵庫県下で唯一ラムサール条約登録湿地となっている円山川下流域の湿地・周辺水田を活用した環境学習事業を行う。

高校生を主な対象として、恵まれた自然の中で、生物調査や保全活動を経験することにより、但馬の豊かで美しい自然環境を次世代に残していくための人材育成につなげる。

2 事業内容

(1) 田結湿地等の調査・保全活動

但馬地域内外の高校生が湿地等の生物調査や外来植物の駆除を行うなど自然保護の活動を通じて、生物多様性に関する分析方法等を学習する。

- ・魚類・昆虫等の生態調査及び水質調査
- ・外来生物（植物）の駆除等の保全活動
- ・但馬管内・管外の高校生間の交流と情報交換

(2) 活動発表会の開催

但馬地域内外の高校生や各種主体が活動報告を行い、高校間の交流・情報交換を図るとともに、湿地の生息環境の維持の重要性について広く意識啓発を図る。

- ・高校生による活動結果の報告、パネルやポスター等の展示
- ・専門家による基調講演、環境保全団体の活動報告

(3) 実施主体

但馬・みらいと環境づくり協議会

【参考】令和6年度の実績

田結湿地等をフィールドとして合計4回開催し、高校生150名の参加により生物調査等を行い、ラムサール条約登録湿地の理解、高校間の交流を深めた。

- ・活動期間：令和6年6月～12月
- ・参加校：香住高校、豊岡総合高校、出石高校、飾磨高校、星陵高校
- ・指導：兵庫県生物学会但馬支部

3 予算額 2, 2 8 7 千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	県民躍動室 環境課	ダイヤルイン 0796-26-3650	県民協働参事 永井 秀明 （藤原 英隆）	

ク リ ー ン 但 馬 10 万 人 大 作 戦 の 推 進

1 事業の趣旨、目的

但馬地域の環境美化の推進を目的とし、地域団体、住民等が一体となり、不法投棄防止活動の充実を図り、環境美化県民運動を展開する。

この事業は、平成2年度にクリーン但馬5万人大作戦としてスタートし、以後継続して実施され、地域における毎年の恒例行事として認知されている。

ごみを捨てない、捨てさせない心を育むとともに、環境美化の意識を定着させ、不法投棄を許さない地域づくりを推進していく。

2 事業内容

(1) 地域住民と一体となった不法投棄防止対策の推進

毎年6月の第1日曜日を実施基準日と定め、通年で地域団体、住民等による清掃活動に加え、不法投棄の防止を図るため、監視活動を行うことによって、クリーン但馬10万人大作戦事業を展開していく。

(2) 海岸漂着ごみ対策の推進

海岸漂着ごみの発生源の一つである、河川周辺等からのごみ流入の削減を図るとともに、関係機関と連携を取り、海岸・河川での清掃活動の強化や監視活動、普及啓発等を推進する。

3 予算額 565千円



住民等による清掃活動（香美町）



回収されたゴミ



記者発表（ 発表 ・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	豊岡土地改良センター 整備課	ダイヤルイン 0796-26-3717	所長 高木 利人 （榮藤 公彦）	

清流の郷づくり大作戦

1 事業の趣旨、目的

但馬地域においては、農業用水の約 9 割が河川から取水しており、井堰は重要な施設となっている。

県民局では、平成 26 年度から令和 5 年度にかけて岸田川、矢田川、竹野川の農業用井堰で「水辺の小わざ魚道」整備を進めてきた。

井堰は昔から水田営農に供し水利組合が管理してきたが、少子高齢化による人手不足が問題となっており、魚道を含めた管理体制の整備が課題となっている。

そこで、ハード整備と併せて、地域住民の魚道等に対する理解を深め、地域全体で保全する体制づくりを目指し、有識者や漁協、地域住民等を交えて保全管理等を話し合う「水辺の小わざ検討会」の実施や、高校生等の参画を得ながら、魚類の遡上調査や小わざ魚道づくり体験、稚魚の放流会等の各種イベントを開催してきた。これらの取組を通じ地域が魚道を含めた河川環境を守る重要性を認識してきた。

令和 4 年度より岸田川、矢田川において、令和 6 年度より竹野川での保全活動の実施主体を県から地域へ移行を進めている。

2 事業内容

(1) 各河川の清流の郷づくり協議会の運営支援

岸田川、矢田川、竹野川における「協議会」の運営支援を行う。また、各協議会の情報共有による活動の活性化を目的に学識経験者を交えた合同連絡会を開催する。

ア 構 成 員：漁協、各井堰管理者、関係市町 等

イ 活動内容：地域と連携した保全活動や学識経験者との意見交換等

ウ 支援内容：県は協議会にオブザーバーとして参加を予定。これまでの活動と同程度の取組ができるよう助成を行う。

(2) 各協議会の活動報告を目的とした、活動誌の作成補助

各河川における「協議会」の活動内容を関係者や地元住民等へ周知することを目的に、活動誌の作成を支援する。

(3) 実施主体

県

【実施スケジュール】

内 容		事業主体	対象	負担区分	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備 考
魚道整備 (R5 年度完了)	岸田川	県	農業 水利者	国 55% 県 27.5% 市 17.5%								国庫補助 事業
	矢田川											
	竹野川											
(1) 魚道づくり体験等 の実施	矢田川	県	地域住 民	県 100%								地域躍動 推進費
	竹野川											
(2) 連絡会の開催	岸田川											
	矢田川											
	竹野川											
(3) 清流の郷づくり協 議会の運営支援	岸田川	協議会	協議会	1/2 補助								
	矢田川											
	竹野川											

3 予算額 80 千円



記者発表（ 発表 資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	豊岡農林水産振興事務所 森林課 朝来農林振興事務所 森林第2課	ダイヤルイン 0796-26-3698 ダイヤルイン 079-672-6881	所長 松岡 浩司 （雑賀 謙彰） 所長 竹中 寛 （福島 智則）	

野生鳥獣被害対策の推進

1 事業の趣旨、目的

但馬地域では、有害鳥獣捕獲や防護柵設置等の対策を推進しているが、野生動物による令和5年度の農林業被害額は、128百万円と依然深刻な状況にある。

特に、美方郡では、近年、積雪量が少ないことに加え、狩猟者の高齢化や猟銃所持者数の減少により、鳥獣被害は増加傾向にある。

このため、美方郡を中心に捕獲が手薄な市町境等での捕獲体制を強化するため市町間連携による捕獲を進め、シカ生息密度の低減を図る。

また、漁業被害の大きいカワウについて、広域的かつ計画的な対策を実施する。

2 事業内容

(1) シカの市町連携捕獲の実施

「但馬地域鳥獣被害対策協議会」において、有害捕獲状況を基に捕獲エリアを設定し、市町連携により捕獲班の編制・市町有害捕獲許可の調整を行い、銃猟捕獲を実施する。

(2) 水系単位によるカワウ捕獲の実施

但馬地域の水系ごとに関係市町や内水面漁協と連携し捕獲や調査を実施する。

3 予算額 128千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	TEL	発表者名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	豊岡土木事務所 まちづくり建築第2課	ダイヤルイン 0796-26-3755	まちづくり参事 山盛貴重 （まちづくり建築第2課長 八幡竜介）	

但馬U・Iターン400人大作戦の展開

1 事業の趣旨、目的

きめ細かい移住相談対応と移住者受け入れ体制の強化、さらに若年世代への働きかけにより移住・定住を促進し、但馬地域へのU・Iターン者数年間400人を目指す。

2 事業内容

- (1) U・Iターン促進拠点「たじま暮らしサポートBASE」の運営
 - ア 専門の移住相談員による住まいや仕事探し相談のワンストップ対応
 - イ WEBや東京・大阪での移住イベント等、多様なチャンネルを活用した情報発信
 - ウ 移住希望者の要望に応じきめ細かく対応する「オーダーメイドツアー」
 - エ 「オール但馬」として5市町連携のハブ
- (2) 人材不足分野へのU・Iターン促進
 - ア 人材不足分野等で、地元事業者と連携した「たじま仕事×暮らし体験ツアー」
 - イ 商工観光、農林漁業等多様な分野の機関と連携した移住希望者への情報発信
- (3) 地域を担う若者のUターン促進
 - ア 若者が運営・交流するコミュニケーションメディア「20GRAPHIE」の運営
 - イ 新成人無料撮影会の開催による若者とのつながりづくり
- (4) 移住者が移住者を呼ぶ環境づくり
 - ア 移住者交流会による移住者ネットワーク構築と移住後フォローアップの強化
 - イ 移住希望者が既移住者に直接会って体験や暮らしを聞ける「先輩移住者マップ」の更新
- (5) 移住者による空き家活用の促進
 - ア 管内と都市部（神戸・姫路会場）での空き家相談会の開催
 - イ 移住希望者への市町空き家バンク物件紹介
 - ウ 移住・定住に繋がる空き家の活用促進に向けた情報交換会の開催

3 予算額 9,000千円



移住イベント相談ブース



移住者交流会



空き家相談会



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	県民躍動室 県民課	ダイヤルイン 0796-26-3641	県民協働参事 永井 秀明 （森脇 淳二）	

地 域 活 動 応 援 事 業 の 推 進

1 事業の趣旨、目的

但馬地域ビジョン2050（令和4年3月策定）がめざす未来の姿「つながる、たからじま ～みんなで創る ワクワク但馬～」の実現に向け、地域の活性化に取り組む団体の活動を支援する。

2 事業内容

地域団体が企画・実施する下記事業に必要な経費の一部を補助する。

(1) 対象事業

但馬地域の課題解決や活性化に向けて取り組む事業

ア 豊かな自然や文化などの地域資源の再発見・発展につなげ、次世代に継承する事業

イ イベントなどを通じて他地域との交流促進や協働による地域活性化につながる事業

ウ 地域の住民が身近に芸術文化に触れる機会を提供し、芸術文化の魅力発信や人材の育成を図る事業 など

(2) 補助率等

定額

30万円以内（千円単位）

(3) 募集期間

令和7年3月下旬から令和7年4月上旬

(4) 審査会の開催

- ・企画提案会（公開審査） 令和7年5月中旬
- ・審査委員 学識経験者3名、但馬青少年本部役員1名、
但馬県民局長 計5名



【地域団体による環境学習の様子】

3 予算額 8,064千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	県民躍動室 県民課	ダイヤルイン 0796-26-3648	県民協働参事 永井 秀明 （村中 正幸）	

地 域 の 見 守 り カ ア ッ プ 作 戦

1 事業の趣旨、目的

青少年の健全育成に向けて県民意識の高揚を図るとともに、青少年のみならず大人の規範意識の醸成と社会環境の浄化を地域ぐるみで図る気運を高めることを目指し、但馬青少年本部をはじめ、警察や学校、地域団体等と連携し、次代を担う但馬の青少年を地域で守り、育て、温かく見守るという意識を持って、青少年の非行化防止や健全育成に取り組む。

青少年や保護者が集まる行事等において、見守り力向上に資する啓発用チラシ、啓発グッズを作成配布する。

2 事業内容

(1) 但馬の青少年を見守る「ひと声運動」の実施

但馬青少年本部の構成団体や市町、警察、PTA役員等と連携し、地域の青少年が集まるエリアを中心にパトロールを実施する。

○青少年への声かけ、店舗での聞き取り並びに啓発チラシを配布

(2) 青少年非行に対する地域の危機意識醸成のためのキャンペーン実施

青少年愛護条例の主旨を周知し、青少年の健全育成の機運を高め、地域の子どもは地域で守るという意識を醸成するため、不特定多数の人が集まる大型イベント等の場で啓発活動を実施する。

○大型イベント等で啓発グッズを配布

(3) 適切なインターネット利用への啓発活動

青少年の育成環境において課題となっているインターネット上のトラブルやネット依存から青少年を守るため、家庭での効果的なルールづくりやフィルタリングの活用についての啓発活動に取り組む。

○青少年本部や中学校、各市町が行う行事、研修会等で啓発グッズを配布



研修会でのグッズ配布

3 予算額 335千円



記者発表（ 発表 ・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	豊岡土地改良センター 農村計画課	ダイヤルイン 0796-26-3715	所長 高木 利人 （萩原 貞二）	

安全安心で住みよい但馬の農村(むら)づくり

1 事業の趣旨、目的

但馬地域には地すべり地域が多く、「農地地すべり防止区域」が10箇所（251ha）指定されており、各区域で地すべり防止工事等のハード対策を進めている。

また、地すべり防止対策として日常の管理が重要なことから、地域住民・市町・県による「但馬地域農地地すべり対策協議会」を設立し、地域の意識啓発、監視・連絡体制の充実等、ソフト対策も進めている。

しかし、近年農業者の高齢化や耕作放棄地の増加による地すべりの誘発が懸念されており、安全安心で住みよい農村が失われつつある。

地すべり防止にはハード・ソフト対策に加え、適切な農地管理（農作業）が非常に重要であり、その人材確保が課題となっている。

このため、地域が農作業の手助けを行う棚田保全会員（個人、企業等）を募り、登録・派遣する仕組みづくりを支援する。

2 事業内容

(1) 棚田保全活動会員の募集

「地すべり防止区域」の棚田で、高付加価値米栽培等を積極的に展開しているが、人材確保等の課題に直面している板仕野区域（香美町村岡区）をモデルに、農作業の手助けを継続的に行う棚田保全活動会員（個人・企業等）を募集

(2) 保全活動の実施・広報

ボランティア参加型の保全活動の効果的实施や新たな会員の募集に向け、地元高校とも連携しながら、啓発用のPR動画等を作成。

(3) 保全活動の継続・拡充

棚田保全活動を今後も継続して行うため、地元の高校での棚田授業をはじめ、ボランティア参加と専門家による話し合いを実施し、持続的に活動に参加できる人員の確保や他の地すべり地域に活動を広げる方法について検討を行う。

(4) 実施主体

県

3 予算額 80千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	豊岡土地改良センター 農村計画課	ダイヤルイン 0796-26-3715	所長 高木 利人 （萩原 貞二）	

但馬牛がいるむらづくり支援事業

1 事業の趣旨、目的

中山間地域を中心に過疎化・高齢化の進行やイノシシやシカ等による農作物被害により地域住民主体での農地管理が難しくなり、耕作放棄地が増加している。

このような中で、多面的機能支払交付金^{*1}を活用し、その解消に努めている地域においても、構成員の高齢化は、活動の継続していく上で重要な課題となっている。

一方、但馬地域のブランドである但馬牛は、世界的な評価が高まり、年々輸出量も増え、但馬牛繁殖農家を希望する若い生産者も増えている。

しかし、飼育にあたっては、悪臭や害虫など畜産公害を集落が心配し、用地の確保が難しい状況にある。

このため、集落へのデメリット（＝畜産公害の心配）だけで畜産農家の参入を判断するのではなく、メリット（＝畜産への新規参入者が地域の機能維持のための担い手としても活躍等）も同時に考えられるようなマッチングを進める必要がある。

そこで、但馬牛を切り口として、集落の考えを把握し、集落機能の維持に向けた誘導とするための支援を実施する。

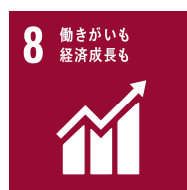
※1 農業や農村が持つ多面的機能の維持や、機能の発揮を図るための地域の共同活動を支援し、地域資源（水路、農道、ため池及び法面等、農業を支える共用の施設）の適切な保全管理を推進する目的で設立された助成金制度（農地維持 田 3,000 円/10a 畑 2,000 円/10a 草地 250 円/10a）令和5年度の実績状況（組織数:192 集落数:226）

2 事業内容

（1）畜産農家誘致による過疎集落の活力維持に向けて、放牧や畜舎利用等の集落の土地利用計画を提案するなど、候補集落の意識を醸成する。

（2）実施主体
県

3 予算額 500千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	総務企画室 総務防災課	ダイヤルイン 0796-26-3618	室長 遠池 良逸 （班長（企画防災担当）原 悟）	

県民局広報・広聴の強化事業

1 事業の趣旨、目的

県の施策、県内の動きなど、県民との情報共有を推進していくため、報道機関等へのパブリシティ活動に一層取り組むとともに、広報誌や SNS を効果的に活用した県政情報を提供する。

2 事業内容

(1) 但馬県民局広報・広聴活動における情報発信、収集業務

- ア フリーペーパーを活用した但馬地域の情報発信
管内住戸に配布・施設窓口に配架される冊子の紙面購入により、新聞未購読層、ネット未利用層向けに但馬地域の情報を発信する。
- イ SNS（インスタグラム等）を活用した但馬地域の情報発信
フォロワーが一定数いる兵庫県公式アカウントの活用を想定し、ネット利用層向けに但馬地域の情報を発信する。
- ウ 県民だよりひょうご（全県版・但馬地域版）による但馬地域の情報発信
- エ サイネージを利用した動画放映、県政情報の発信
- オ 兵庫県ホームページ（但馬県民局）の公開、編集
- カ はばタン着ぐるみ貸し出し、管理

(2) 業務補助要員の雇用

フリーペーパーの紙面作成や、SNS 投稿にかかる業務を行う職員を雇用する。

- ・雇用人員：会計年度任用職員 1 名
- ・雇用期間：令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日
- ・業務内容：総務防災課業務補助

3 予算額 4, 9 1 0 千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	TEL	発表者名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	県民躍動室 県民課	ダイヤルイン 0796-26-3648	県民協働参事 永井秀明 （村中 正幸）	

但馬地域ビジョン2050の推進

1 事業の趣旨、目的

令和4年3月に策定された但馬地域ビジョン2050の実現に向け県民主役のビジョンを推進するため、30年後の次世代を担う若者に向けた出前講座等を通じ普及啓発するとともに、地域ビジョンの実現に資する取組を行う団体等、多くの県民が地域の未来を語り合い、考える場づくりを展開する。

2 事業内容

(1) 但馬地域ビジョン2050の普及啓発

但馬地域ビジョンに共感し、ともに行動する主体を増やすため、次世代を担う若者等、地域住民に対する普及啓発を実施する。

ア 出前講座の実施

県立高等学校等への出前講座の実施

イ ホームページによる情報発信・PR

ホームページにより、地域ビジョンの実現に資する取組などの情報発信を推進する。

ウ 広報推進員の設置

主に次代を担う若者に向け、但馬地域ビジョン2050の実現に向けた取組や地域活動などをきめ細かくフォローし、SNS（インスタ、ツイッター等）で発信するために、情報収集する広報推進員を設置する。



出前講座の様子

(2) たじま交流フェスタの開催

多くの県民が集い、地域の未来を話し合う機会としてたじま交流フェスタを開催する。

- ・開催日時 令和8年3月頃
- ・開催場所 但馬文教府多目的ホール
- ・参加者 50人～80人（地域活動団体、一般県民、地域のキーパーソン、自治体職員、大学生等）

3 予算額 3,853千円



記者発表（ 発表 ・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	県民躍動室 県民課	ダイヤルイン 0796-26-3641	県民協働参事 永井 秀明 （森脇 淳二）	

専 門 職 大 学 等 と 連 携 し た 芸 術 文 化 振 興 の 推 進

1 事業の趣旨、目的

音楽、演劇、伝統芸能などの芸術文化事業の活動支援や発信を芸術文化観光専門職大学等と連携して行うことにより、芸術の魅力あふれる地域づくりを推進し、交流人口の拡大と地域の活性化を図る。

2 事業内容

(1) 豊岡演劇祭 2025 への支援

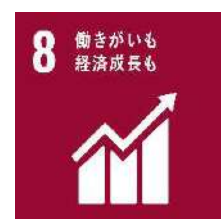
豊岡演劇祭への支援を通じて、但馬全域における芸術文化の魅力向上と振興を図る。

【補助金総額】900 万円

(2) 芸術文化施設・イベント情報発信事業

但馬地域の周遊につながる芸術文化施設やイベント情報等をホームページで発信する。

3 予算額 1 0 , 3 6 4 千円



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	豊岡土木事務所 まちづくり建築第2課	ダイヤルイン 0796-26-3755	まちづくり参事 山盛貴重 （まちづくり建築第2課長 八幡竜介）	

豊岡復興建築群の魅力発信

1 事業の趣旨、目的

旧豊岡市の中心には、北但大震災で倒壊や焼失し、その後復興した建物が多く残っている。令和6年には、それら建築物の一部が復興遺産として県景観条例に基づく景観遺産に登録された。

2025年の北但大震災復興100年の機会を捉えて、地域団体等と連携した様々な取り組みを通じて、豊岡復興建築群の魅力を内外に発信し、地域活性化や移住定住の促進につなげる。

2 事業内容

(1) 歴史的価値の普及啓発

ア 豊岡復興建築群の情報発信

（既存デジタルマップの活用・更新）

イ 中学校や高等学校での出前講座の実施

(2) 復興建築を活用した地域活性化

ア 復興建築群まち歩き（スタンプラリー）の開催

イ 復興建築でのイベント



まち歩き

3 予算額 1, 2 2 5 千円



旧豊岡町役場
『豊岡稽古堂』



旧兵庫縣農工銀行豊岡支店
『オーベルジュ豊岡 1925』



豊岡劇場
『豊岡劇場』



記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	T E L	発 表 者 名 （担当課長名）	その他の 配布先
2／10 （月）	豊岡土木事務所 まちづくり建築第2課	ダイヤルイン 0796-26-3755	まちづくり参事 山盛貴重 （まちづくり建築第2課長 八幡竜介）	

但馬の歴史と物語を生かした新しいまちづくり

1 事業の趣旨、目的

2025年は北但大震災から100年を迎え、地域に注目が集まることから、豊岡市の中心市街地に点在する復興建築群を巡る、芸術・歴史・文化・食が融合した効果的な謎解きツアーのプログラムを開発する。その開発・運用を通じて、地域固有の歴史や物語を生かし、地域の賑わいを再生する新しいまちづくりの一つのモデルとする。

2 事業内容

(1) 謎解きプログラムの開発

ア 謎解きシナリオの作成

イ WEBサイトの作成

ウ 謎解きキットの企画設計（オリジナルポーチ、謎解きマップ、ショップ優待券など）

(2) 謎解きイベントの運営

イベントのモデル実施（モデル実施でキットを無料配布）

3 予算額 5,000千円



【イメージ】

